

[成果情報名] 高品質良食味でいもち病抵抗性を有する早生の水稲新品種「なついろ」

[要約] 「なついろ」は夏季の高温下で登熟しても玄米外観品質の低下程度が小さく、さらに「コシヒカリ」と同等の良食味を有する。また「コシヒカリ」と比較して早生であるため作期分散に利用できるとともに、稈長が短く、いもち病に対して非常に強い抵抗性を有することから栽培性に優れる。

[キーワード] 水稲新品種、早生、高品質、良食味、いもち病抵抗性、なついろ

[担当] 三重県農業研究所 農産研究課

[分類] 普及

---

### [背景・ねらい]

本県は「コシヒカリ」の作付け比率が水稲作付面積の約 8 割を占め、夏季の高温等の影響により過去 10 年（平成 20～29 年産）の水稲うるち玄米の 1 等米比率は平均で 44.5%と、全国（同 79.5%）と比較して低い水準となっている。そこで、高品質かつ良食味で栽培性に優れる水稲品種を育成し、県産米の品質向上に取り組む。

### [成果の内容・特徴]

1. 「なついろ」は、平成 25 年 2 月に高温登熟性に優れる「三重 23 号」を母親、高度ないもち病抵抗性を有する「ともほなみ」を父親とした人工交配を行い、その後代から育成した。旧系統名は「三重 33 号」。令和元年は BC3F7 世代である。
2. 「コシヒカリ」と比較して、出穂期が 3 日、成熟期が 6 日早い早生系統で作期分散に利用できる。また、稈長は 10cm 程度短く、耐倒伏性に優れ、いもち病抵抗性（葉いもち抵抗性）が非常に強いことから、栽培性に優れる。
3. 「コシヒカリ」と比較して、穂数はやや少ないが、玄米千粒重が 1.6g 程度大きく、収量は同程度である。
4. 夏季の高温下で登熟しても玄米外観品質が良好であり、「コシヒカリ」と同程度の良食味を有する。

### [成果の活用面・留意点]

1. 耐倒伏性に優れ、高度ないもち病抵抗性を有することから、多肥栽培による多収が見込める。
2. 保有しているいもち病抵抗性は葉いもちに対する圃場抵抗性で、病気にかかることを完全に防ぐことはできないが、様々な系統のいもち病菌に対して被害を軽減するタイプの抵抗性である。
3. 「コシヒカリ」と比較すると、登熟期間中に葉色が濃く推移し、収穫適期においても穂軸に青みが残りやすいため、収穫適期（籾水分 26～28%、出穂期後 30 日前後）に留意する。
4. 適用地域は県内全域で、令和 2 年産の作付面積は約 40ha を予定している。

[具体的データ]

表1 「なついろ」の特性概要

		なついろ	比)コシヒカリ	参)三重23号
出穂期	(月. 日)	7.13	7.16	7.13
成熟期	(月. 日)	8.12	8.18	8.11
登熟日数	(日)	30	33	29
稈長	(cm)	81	91	78
穂長	(cm)	20.5	19.3	19.9
穂数	(本/m <sup>2</sup> )	450	479	458
倒伏耐性		強	弱	強
穂発芽性		中	難	中
耐病性	葉いもち	極強	弱	やや強
	穂いもち	中	弱	やや弱
	白葉枯病	中	中	中
精玄米重	(kg/a)	60.4	56.7	59.0
同比率	(%)	107	100	104
玄米千粒重	(g)	22.9	21.3	23.4
玄米外観品質	(1-9)	4.3	6.3	4.4
玄米タンパク質含有率	(%)	7.0	7.2	7.0
食味官能評価	(-3 - +3)	0.09	0.00	-0.04
調査年次及び場所		平成28年～令和元年、三重県農業研究所(松阪市)		

平成28年の供試時点で固定は完了し、系統の特性は安定していた。耐病性以外のデータは4月2日播種、4月25日移植での調査結果。穂発芽性について、令和元年には調査を実施しなかった。耐病性について、葉いもちは平成29年、白葉枯病は令和元年には調査を実施しなかった。精玄米重、玄米千粒重は1.85mm網上玄米の調査結果で、ともに15%水分換算値。玄米外観品質は、1(上上)～9(下下)の9段階評価。食味官能評価はコシヒカリを基準とした相対評価で、-3(不良)～0(並)～+3(良)の7段階評価。

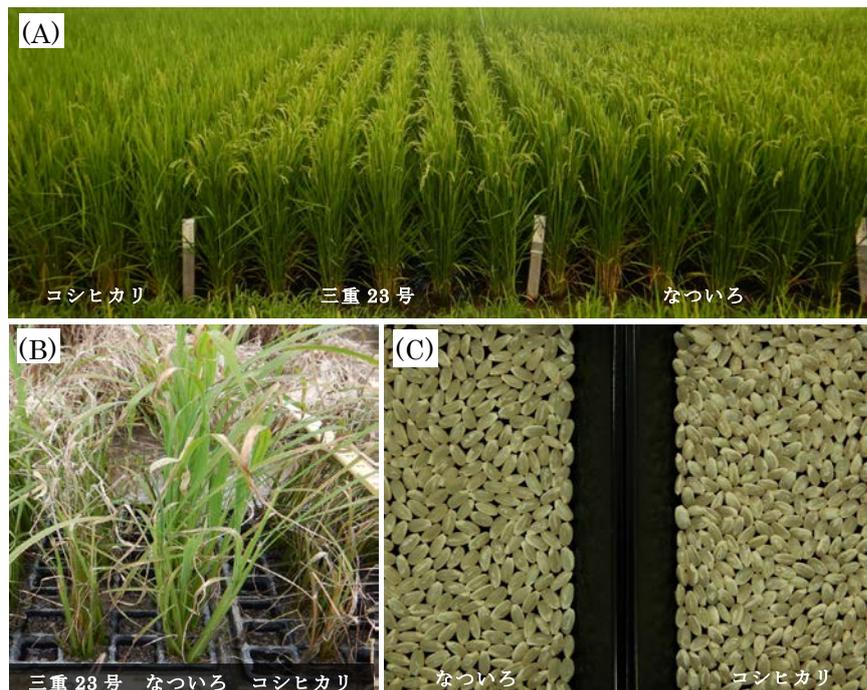


図1 「なついろ」の特性写真  
 (A) 品種比較試験ほ場での穂揃い期の様子  
 (B) 葉いもち検定試験での発病状況  
 (C) 玄米サンプル

(松本憲悟)

[その他]

研究課題名：みえの多彩なお米商品の開発と戦略的販売体制の構築、イネのDNAマーカー選抜育種支援システムの構築、原種及び奨励品種決定調査事業

予算区分：県単(2012～2013)、国補(2014～2018)、執行委任(農産園芸課、2019)

研究期間：2012～2019年度 研究担当者：松本憲悟、山川智大、太田雄也、大野鉄平

発表論文等：種苗法に基づく品種登録出願(令和元年10月)